

い し ず え

全損保日勤外勤支部 東日本合同職場会ニュース 08 - 31

2008年 3月24日 (発行) 首都分会組対部

国鉄闘争から学ぶ、労働争議

「正しいことは正しい、間違っていることは間違っている」

3月5日、エディカス東京で行われた、「鉄建機構勝利判決を勝ち取る3・5決起集会」に参加しました。いわゆる「国鉄闘争」は、1987年4月の「国鉄分割・民営化」の際、JR採用に関して、国鉄労働組合（国労）全国鉄動力車労働組合（全動労）などの組合員1047名が、所属組合を理由にJRへの採用拒否、解雇された事件で、現在も「鉄道運輸機構」を相手に旧国鉄の行った不当労働行為の責任を追及し、裁判でたたかっています。

闘争団はアルバイトや物品販売、カンパを集い、家族と共に20年以上たたかっているのです。「国鉄闘争」は裁判で負けたこともありましたが、それでもたたかい続けています。なぜそこまでしてたたかうのか、それは「正しいことは正しい、間違っていることは間違っている」という確固たる信念があるからです。JR 経営や国の間違いにはっきりと「間違っている」と言い、差別や弾圧にも屈せず、「正しいことは正しい」と信念を貫く姿は大変力強く、私たちも見習うことが沢山あります。裁判所への陳述書や裁判長宛の家族の手紙なども、インターネットで検索すれば見付かります。また、東京地裁で判決を下した、難波裁判長は国鉄闘争裁判でも判決を出しています。

「国鉄闘争」に比べれば、私たちは解雇もされてなく、今まで通りに仕事と生活が出来ています。しかし、東京高裁の判決によっては、解雇されるかも知れません。それでも私たちは「正しいことは正しい、間違っていることは間違っている」とたたかい続けなければなりません。そんなことにならない様に、東京高裁で絶対に勝つ、そのために全力でがんばりましょう。